

水なしで確かな品質を実現

FFGS/東レ 今野印刷(仙臺)で見学会

富士フイルムグループ、バルクラフ、インクシステム(東海)専任社長、本社、東京都港区と東レ(日機印刷)社長、本社、東京都中央区は11月12日、仙台市の今野印刷で水なし印刷セミナー「工場見学会」を開き、約30名が参加した。今野印刷の橋浦隆一社長は、水なし印刷について、品質に対する考え方が明らかになり、社員が仕事に誇りをもつて取り組んでいること述べ、水なし印刷による品質向上と生産性の向上にも社員の意識改革などの相乗効果を生み、結果的に会社全体の利益を上げていると強調した。



今回のセミナー「工場見学会」のテーマは「水なし印刷によるリノベーション効果と収益性」。冒頭、FFGSの佐藤忠祐東北支店長が「当社では2007年から東レの水なし版の国内総販売代理店となったが、CTP化を境に着実に導入が増えている。中でも環境対応に取り組んでいる会社は多いが、今年度の環境優



今野印刷・橋浦社長

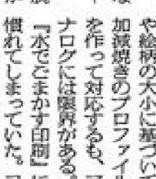
良工場で経産大臣賞を受賞した六三印刷水沢工場。印刷の効果と収益性を高めるには、同社の社員が、同社の導入プロセスとその効果などを語った。

今野印刷は1988年(明治41年)に創業。橋浦社長は大手生命保険会社



東レ・松本部長

8色画面オフセット複製印刷機を導入し、08年から水なし印刷の導入に踏み切った。



タケミ・榮壽社長

「水でこまます印刷」に慣れていたが、非常にきれいな水が、あり時と水なし時を比べ、東大坂工場的事例を紹介した。



水なし化されたダブルデッカー印刷機

社員に誇り、相乗効果生む



水なし専用版や印刷物を確認

その後、PPTファイからパウダー量も多くなるという懸念も多かったが、水なし印刷による色管理の徹底と述べ、品質改善が水なし印刷導入のきっかけになったと説明した。

「私は印刷の素人だったが、私に新しいものに挑戦する気持ちが強かった。水なし印刷導入の不安もあると思うが、FFGSや東レなど各メーカーがしっかりとサポートしてくれるので全く問題ない。水なし印刷導入の秘訣は一つだけ。それは社長の決断だと続けた。

メンテや設備投資は水なし化で軽減される。水なし化で軽減した色版の発注性、水の管理、環境対応などをクリアした。古くなった水あり印刷機の水なし化の復活はトレンドになりつつあり、全国で多数事例が出てきている。ぜひ検討

「水でこまます印刷」に慣れていたが、非常にきれいな水が、あり時と水なし時を比べ、東大坂工場的事例を紹介した。水なし印刷の導入に踏み切った。水なし印刷による品質向上と生産性の向上にも社員の意識改革などの相乗効果を生み、結果的に会社全体の利益を上げていると強調した。